

在版データ流用の注意点

書籍のデータは将来の改訂のために保管されますが、
電子書籍の制作、別の書籍への流用といった目的でも使われます。
在版データを使用する際の注意点について解説します。

■InDesignのバージョン

校了して一度書籍になったデータを在版データといいます。在版データはInDesignファイルのかたちで保管されますが、InDesignは下表のようにバージョンアップを繰り返しており、データが作成された時期によって使用されるバージョンが異なります。

CSシリーズの最終バージョンであるCS6は、普及率が高く比較的長い期間使用されていたため在版データが多く残っています。しかし、発売から10年以上経過した製品のログインサポートを打ち切るというアナウンスが発売元のAdobeから出されており、CS6もバージョンアップが必須となっています。

InDesignのバージョンアップに伴い、対応するOSも新しいもの変わっていきます。当社のようなDTP会社は、最新のバージョンに対応するために常に最新の環境を整えておく必要があります。反対に、旧バージョンのInDesignを扱うためには、古いOSで

動くPCを残しておかなければなりません。しかし、ハードウェアのトラブルなどにより使用できるPC台数は必然的に減っていきます。当社でも旧バージョンのInDesignは、対応するOSで動くPCがないため段階的に使用できなくなっています。

また対応可能なPCがあったとしても、現在の作業環境では旧バージョンのInDesignは作業性が悪く、データも安定しないため、作業効率や品質の低下を招きます。そのため在版データを使用する商品は、作業前になるべく上位のバージョンへバージョンアップすることをお勧めしています。

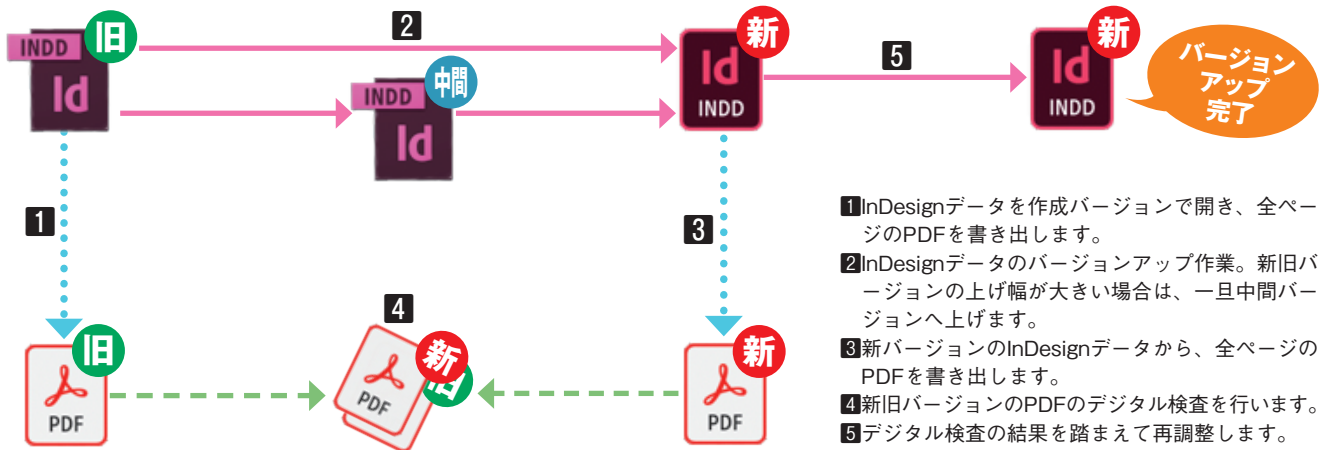
■バージョンアップの工程

在版データのバージョンアップは書籍の改訂に先立って実施されることが一般的ですが、それは次のような工程で行われます。

まず、在版データを制作当時のバージョンで開き、

InDesignの各バージョンのリリース時期と対応OS一覧

商品名 (通称)	正式バージョン名	発売時期	対応MacOS	DTP作業	バージョンアップ	PDF書き出し
InDesign CS	Ver.3.x	2003年10月	10.2~10.4			
InDesign CS2	Ver.4.x	2005年5月	10.2~10.4			
InDesign CS3	Ver.5.x	2007年4月	10.4~10.5			書き出し不可
InDesign CS4	Ver.6.x	2008年12月	10.4~10.6			
InDesign CS5	Ver.7.x	2010年5月	10.5~10.8			
InDesign CS5.5	Ver.7.5.x	2011年5月	10.5~10.8	作業不可	必須	
InDesign CS6	Ver.8.x	2012年5月	10.6~10.9			
InDesign CC	Ver.9.x	2013年6月	10.6~10.9			
InDesign CC2014	Ver.10.x	2014年6月	10.7~10.10			
InDesign CC2015	Ver.11.x	2015年6月	10.9~10.11			
InDesign CC2017	Ver.12.x	2016年11月	10.10~10.12			
InDesign CC2018	Ver.13.x	2017年10月	10.11~10.13			書き出し可
InDesign CC2019	Ver.14.x	2018年10月	10.12~10.14	作業可能だが非効率	強く推奨	
InDesign 2020	Ver.15.x	2019年11月	10.13~10.15			
InDesign 2021	Ver.16.x	2020年10月	10.14~11			
InDesign 2022	Ver.17.x	2021年10月	10.15~11	作業可能	不要	
InDesign 2023	Ver.18.x	2022年10月	10.15~12			



PDFを書き出しておきます。その後、すべてのデータのバージョンアップ作業を行います。その際、文字化けやオブジェクトの形状変化等が発生することがわかっており、それらをチェックし修正します。新旧バージョンの上げ幅が大きい場合は、一旦中間バージョンへ上げ、さらに同じ作業工程を繰り返します。

バージョンアップが完了したら再度PDFを書き出し、専用ソフトによるデジタル検査を行います。デジタル検査で発見された差分はあらためて修正しますが、修正不可または修正不要と思われる差分は、お客様へお伝えしたうえで手を加えずにそのまま改訂作業等を進めることもあります。

なお、デジタル検査にはPDFが必要ですが、すでにPDF書き出しが不可能なバージョンもあり、その場合は制作当時のPDFをご用意いただくか、実物書籍などと照合する目視検査となります。

■フォントの問題

DTPの黎明期より数多く使用されてきたType1フォントのサポートを2023年1月にて終了するとAdobeが発表しました。DTPの2023年問題とも言われています。DTPで使用する、InDesign、Illustrator、Photoshopの最新バージョンではすでにType1が使用できなくなっています。システムにType1がインストールされ

Type1フォントのサポートが終了したバージョン

InDesign	2023 (Ver.18.2) 以降
Illustrator	2023 (Ver.27.3) 以降
Photoshop	2022 (Ver.23.0) 以降

ている環境であっても、アプリケーション側でフォントを認識しないためフォントメニューにも現れなくなります。

そのため、古い在版データのバージョンを最上位バージョンへ上げる際、Type1が使用されている場合はOpenTypeに置き換える必要があります。HelveticaやFuturaなどメジャーな欧文フォントにはOpenTypeがありますので置き換えが可能です。一部のフォントにはOpenTypeが存在しません。その場合は、類似のフォントに置き換えるか、Type1を元にOpenTypeを作成し置き換えます。ただし、ライセンス規約上、作成できない場合があります。

またフォントを置き換えることで、字詰めやベースライン、字形の変化が生じる可能性があります。詳しくはMCR Vol.60を参照ください。

■配置画像の問題

在版データを使用する際に多く発生するのが、Illustratorの配置画像がないというトラブルです。

CC以前のIllustratorには、配置されているリンク画像を自動的に収集してくれるパッケージ機能が搭載されていませんでした。そのため、リンク画像を手動で集める必要があり、漏れが多く発生していたのです。このようなIllustratorデータを修正したりバージョンアップをする場合は、別途リンク画像を支給していただく必要があります。

もし画像が残っていても、PDFを書き出し、そこから画像を抜き出すことでデータの回復を行うことが可能です。ただし、画像点数が多い場合はかなりの作業時間を要します。